

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

震災復興
特集号

29

1995. 4. 1

阪神・淡路大地震により被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

兵庫県下の各協同組合は、本来の事業活動はもとより、それぞれの分野・特性を生かして、積極的な復興への取り組みを行っております。

1. 阪神・淡路大震災..... 1
2. 協同組合運動への提言..... 2
「危機の極限に直面して」
神戸大学 農学部教授 保田 茂

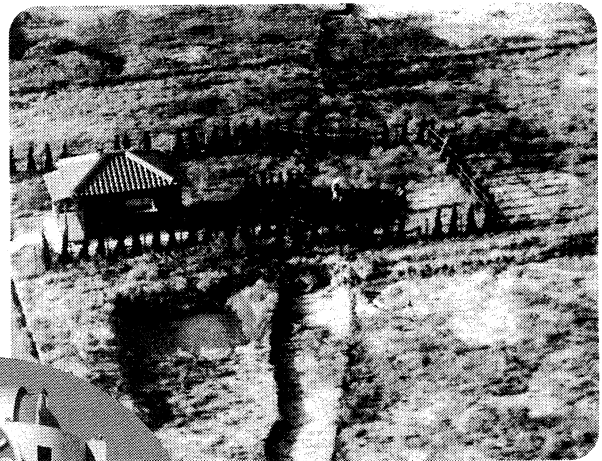
C
o
n
t
e
n
t
s

3. 協同組合の救援活動、復旧(復興)活動の状況..... 3~7
生協・漁協・JA(農協)・森林組合
4. 生協、農林水産業関係被害発生状況
兵庫JCC・各連合会の連絡先..... 8

阪神・淡路大震災



△(生協) 炊き出しの準備をすすめる
播磨生協の組合員ボランティア



農地に亀裂が走った野島断層(JA)△
(津名郡北淡町)



このときを永遠に忘れない!
(天文科学館)

▽(漁協) 損壊著しい長田港



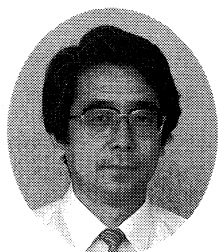
山腹の崩壊
(神戸市東灘区住吉台)(森林組合)▽



●編集発行
兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA(農協)・漁協・森林組合

●編集事務局
兵庫県農業協同組合中央会(JA兵庫中央会)
〒674 明石市魚住町清水148(仮事務所)
TEL 078(943)0394 FAX 078(949)2155

協同組合運動への提言



危機の極限に直面して

神戸大学農学部
教授 保田 茂

未曾有の大地震に遭遇し、九死に一生を得て研究室の窓の外を見れば、大学の真下に見える六甲の街は火の海となり、市内いたるところにも煙が立ち上り、それが瞬く間に広がり、まだ暗闇の残る空を焦がすのであった。やがて夜が明け、真っ黒な煙が空を覆うなか、六甲の街に下りて見ればいたるところ家は倒れ、ビルは傾き、そして火災のあとには煙の残る瓦礫の原が広がり、まるで地獄を見る思いであった。

わずか20秒の大地の振動に過ぎなかったが、賑わいを見せていた街並みは一瞬のうちに崩壊し、多くの生命が失われてしまった。自然の猛威と人間のひ弱さを痛感させられるに十分な大災害であった。

まさか神戸や阪神間でこんな大地震が起こるとは誰が予想しただろうか。これまで各地に起きていた震災は遠くの出来事であり、同情すれども自分の問題ではなかった。当然、危機に対する備えは全くしていなかったし、その必要性すら考えもしてこなかった。

全く突然に危機は訪れた。大地が動けば道路は波打ち、鉄道は倒壊し、地中のパイプも切断されれば電気やガスはもちろん水さえも止まり、商店も倒壊して一切の食料も途絶え、被災者だけでなく周辺住民も等しくその日から飢えと渇きに直面するのであった。金さえあればこの世は大丈夫と考えていた常識は完全に覆され、危機に直面した時、金は誠に無力であることを

教えられることになった。

最後の生活の拠り所となったものは連帯と協同の力であった。日頃から連帯感の強い地域や共同住宅では倒壊した家屋から多くの生命が救出された。水もまた連帯と協同の賜物として供給されることになった。水道が回復するには1ヶ月以上の時間が必要であったが、その間実に多くの地域から毎日のように水が運ばれてきたのであった。飲む側はどこの水かも確認しないままに渇きを癒すのに必死であったが、その水を運ぶには波打ち、かつ渋滞激しい道路をものともせず給水車を走らせる多くの善意があったことを忘れるわけにはいかない。

食べ物もまた実に多くの支援によって賄われた。震災から丸一日は全く食べ物がなかった。しかし、はや翌日には各地から善意のおむすびが届けられ、ようやくにして飢えを凌ぐことができたのであった。やがて、各地のグループによる炊き出しも行われ、心のこもった温かい食べ物を食べるができる機会も増えてきたのである。冷たいおむすびだけの生活が続く中で、一杯の温かい豚汁を喉にした時の感激は忘れ難く、生きる力が湧くのであった。

大震災というかつてない危機の極限に立たされた時、社会発展の原理は何かがよく見える。水を分け合い、食べ物を分け合う連帯と協同の活動がなければとてもこの危機は乗り越えることは出来なかったはずである。危機はどこにでも、そして明日にも起こり得る。今こそ真剣に、競争ではなく連帯と協同の大切さを再確認しなければなるまい。



協同組合の救援活動、復旧(復興)活動の状況

生協

生協があってよかった

阪神・淡路大地震により、県下の生協は24の生協が罹災し、全壊・全焼(立ち入り禁止を含む)した24事業所をはじめ、多くの事業所が被害を受けました。さらに、生協役職員の多くも被災し、16人が犠牲となったほか、住宅の全・半壊(焼)は1,450戸にのぼります。



コープこうべの本部ビルが倒壊した

組合員の期待に応じて

しかし、こうした被害を受けながらも、地域に根づいた生協は、組合員の期待に応えるべく、ただちに事業活動の再開に努めました。

コープこうべは、神戸市、尼崎市と交わしていた「緊急時における生活物資確保のための協定」に基づき両市に毛布、食料品などの支援物資の提供を即日おこなったほか、被災地である西宮市など5市10町にも支援物資を提供しました。

また、損壊した店舗では店頭で、被害の少なかった店舗では仮復旧の状況で供給活動を開始するとともに、協同購入では通常の業務に加えて、組合員を訪問し、行政に集まりながら届けられなかった支援物資を配りながら、困ったことがないかと尋ねて歩きました。

共同購入型の都市生活生協は、生活必需品を手で個別住宅供給に切り替えました。医療生協は、迫りくる炎の



診療所が使用不能のため近所の喫茶店で診療業務を続けた灘医療生協

なかでの地域巡回診療や崩壊寸前の診療所の中での診療活動を震災当日から行い、大学生協でも、神戸大学、甲南大学、関西学院大学など学内に受け入れた避難される方々への支援に即日対応しています。共済生協でも、迅速な保障と組合員の不安に応えるため、被害の実状調査に即日対応するとともに、約款にない見舞金の支給を早々に決め、被災に苦しむ組合員の大きな励みとなりました。

心の支えとなった全国の支援

今回の震災で特徴的なことは全国の生協の仲間のみなさんから寄せられた温かな支援でした。

震災発生直後から、全国の生協から励ましと支援がたくさん寄せられ、飲料水、食料、衣類をはじめ、非常に多くの物資が寄せられました。全国の組合員から寄せられた義援金は9億円を超え、兵庫県など自治体を通じて被災者の方々にお役立ていただくことになっています。

さらに、店舗の再開のため店内の整理や陳列を手伝い、焦土の中で地域医療に身を挺するなど全国からのべ1万人の支援があり、物的なもの以上に復旧に向けた心の支援となりました。生協が組合員の愛と協同で成り立っているように、生協同士が心でつながっていることを改めて実感したものです。

創造的復興を

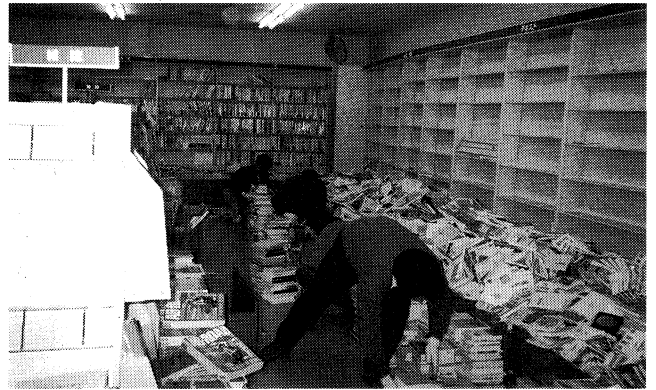
このような努力と支援を受けて、県下の生協は組合員の厚い信頼のもと、復旧・復興に努めています。

最も被害の大きかったコープこうべは、復興にあたって同じ姿に戻す事ではなく、元よりもはるかに優れたシステムへの移行を意味する「創造的復興」が大切だとしています。

事業所が全焼してしまった兵庫ユーザー生協は、尼崎市に仮事業所を開設しました。大学生協では、全国大学生協連と共に、震災で下宿に困る学生向けに仮設住宅250戸の建設に踏み切ったほか、無利子無担保の生活資金を貸し出すなどの組合員支援をおこなっています。

ボランティアセンターを設置

今回の震災では大勢のボランティアが活躍していますが、コープこうべはこの自主的な活動を新しい組合員活動、市民運動の芽生えとしてとらえ、サポートするために、コープボランティア本部を設置したほか、



地震で散乱した書籍売り場を片づける(甲南大学生協で)

8つの地区でコープボランティアセンターが活動を開始し、ボランティアの登録や望まれる支援内容とのコーディネートなどを行っています。

大学生協では、芦屋市内に大学生協ボランティアセンターを設け全国から集まった学生ボランティアが、被災者への支援活動に取り組んでいます。

医療生協でも震災直後から、全国からボランティアが集まり、物資の配給、医療用の水はこびなど停電・断水のなかで治療の維持に活躍しました。

漁協

巨大地震！ 漁業関係に甚大な被害を及ぼす

阪神・淡路大震災により、漁業関係も、神戸市、明石市、淡路島北部地域に甚大な被害をうけました。多くの組合員・役職員宅が倒壊し、避難生活を強いられている関係者も少なくありません。漁港及び関連施設の崩壊も甚だしく、最盛期を迎えている海苔生産への壊滅的打撃や活鮮魚流通がストップするなどの影響を及ぼし、漁業活動を停止せざるを得ないのが現状です。

この震災による漁業関連施設の被害(大阪府、徳島県含む)は2月1日現在の水産庁調査によると、189億6千万円に達しました。漁港施設の被害は22港・157億円、共同利用施設が67ヵ所・21億円、のり加工施設など341件・11億円、漁船・漁具被害は60件・6千万円となっています。

また、のりの生産被害、漁船漁業関係の直接被害もさることながら、将来的ないわゆる間接被害は想像を絶する被害になるものと思われれます。まず第1に好漁場の一つである明石海峡付近(今回の震源地)の魚が極端に少なくなっていること。第2に海底の状況が岩盤等の隆起によって岩



損壊した五色町漁協倉庫

がゴロゴロしており、網を入れられる状態でなくなっていること。第3に漁獲があっても「流通」面も壊滅状

態になっていることから、二束三文に買ったたかかっていること。等々。元の漁場・元の活気状態に戻るのが何年先になるか全く想像もできません。

また、但馬地区においても間接的な被害が出ております。例えば、魚の流通機関がズタズタになっているため、「カニ」の相場も1/3くらいに落ち込んでいるようですし、又、民宿関係においても、京阪神方面からのカニスキツアーが軒並み予約取消しという状態で閑古鳥が鳴いているありさまです。

兵庫県漁業系統団体としても、去る1月27日に兵庫県南部地震漁業災害対策本部を設置し、震災により深刻な打撃を受けた漁業関係者・漁協に対する「的確な情報の収集と提供」、「陳情・要望活動」、「募金活動」等とおして支援活動を行っております。

一般の被災者に対しても同じ被害を受けたもの同士として、助け合いの精神でボランティア活動を行っております。神戸市漁協では、多大な被害を受けているにもかかわらず、職員が救援物資の配送を行ったり、淡路では、青年部・婦人部が北淡町の町民センターで2月10日(金)に1000人を対象に炊き出しを行いました。

また、比較的被害の少なかった播磨・但馬地区の漁業協同組合からは迅速に食料品等の救援物資の提供を行うとともに、特に被害の大きかった東灘区で炊き出しを行い、少しでもお役に立てるように努力しています。

県漁連の販売部としても、東灘区において、塩干物を格安で販売し、ライフライン(水、ガス)を断たれた被災者に喜ばれました。なお、売上げの一部を義援金



北淡町民センターでの炊き出し

として納めました。

震災直後には当会の職員も但馬地区からトラックで水を運び込み、兵庫区の被災地に水を提供してまわりました。

(ボランティアに関しては、上記以外にも各々ができる限りの事を行っております。)

なお、現在、被災地域の漁協・組合員は、生活と生産活動が壊滅的な状況に追い込まれるなかで、再起に向け懸命の自助努力が続けられております。

※兵庫県南部地震漁業災害対策本部調査(3/2現在)によると、漁業関連施設等の損害は約243億円です。その内訳は事務所が約29億円、組合員家屋、加工場漁船等で約121億円、のり生産損害として約30億円、更に漁船漁業損害が約63億円となっています。また、上記のほかに水産庁調査による漁港関係の被害として約199億円があり、被害総額としては、約440億円~450億円にのぼるものとみられています。

JA(農協)

救援活動から復興へ

阪神・淡路大震災により、農業関係では農地、ため池や農業用施設・機械の損壊などのほか、農畜産物の輸送・流通体制の崩壊・停滞で大きな被害が発生しています(3月14日現在、直接的被害で348億円)。

JA関係では、45JAで事務所・農業倉庫・集出荷施設等に被害を受けましたが、JAの本(店)、支所(店)には全壊等はなく震災時から平常通り事業活動を続けています。JA中央会・連合会は県農業会館やJA経済連の東灘精米センター・播磨肥料農薬配送センターなどが大きな被害を受けています。

J Aの組合員・役職員(家族を含む。)の被災は、死亡198名、住宅の全・半壊(焼)7,000戸以上(調査中)となっています。

J A対策本部を設置

阪神・淡路大震災に対応するため、全国のJ Aグループ(J A全中)および本県J Aグループは、J A災害対策本部を設置して、全国のJ Aグループをあげて救援活動などに迅速な対応を行いました。

本県では「兵庫県南部地震J A対策本部」(本部長=西田一治中央会会長)のもとに、震災直後から現在まで救援物資の支援、炊き出し等ボランティア活動、救援募金運動、救援情報の収集・提供などに積極的な取り組みをすすめてきています。



炊き出し準備をすすめるJ A加東郡の職員・女性会員
(神戸市内で)

さまざまな救援支援活動を展開

本県のJ Aグループは、地震後直ちに役職員、女性会などがおにぎりの炊き出しを行ったほか、水、食料品、衣類、毛布、タオルなど救援支援物資を被災地の市役所等を通じて被災者に届けました。

全国の46都道府県のJ AグループおよびJ A全国連等からも1月18日を皮切りに、食料等の緊急支援物資を被災地の市役所等へ届けるなどに取り組み、1県当たり5百万円を超える支援を行いました。



野菜の緊急青空市を開設(JA稲美野が神戸市東灘区渦森台で)

また、本県および全国のJ A役職員や女性会が中心となって、炊き出しや救援物資の仕分け・配送等のボランティア活動に取り組んでおり、炊き出しなど被災者から大変喜ばれました。現在も被災地各地で炊き出し等ボランティア活動を継続中です。

そのほか、緊急青空市を2月に8 J Aで神戸市東灘区渦森台、住吉台で週2回開設し、大変好評を得ました。売上金は義援金として寄贈されました。現在6 J AおよびJ A青年部で野菜等炊き出し材料の支援を継続的に行っています。また、J A兵庫教育センターの宿泊研修用のふろを無料開放し、18日間で延べ650人の利用がありました。

被災地9 J Aでは、住居等の復興のための低利融資制度を設定し、被災組合員の支援を行っています。

全国および本県のJ A組合員・役職員から寄せられた災害義援金は、11億円を超え、被災組合員や農業被害などに役立てるほか、兵庫県などを通じて被災者に役立てることになっています。

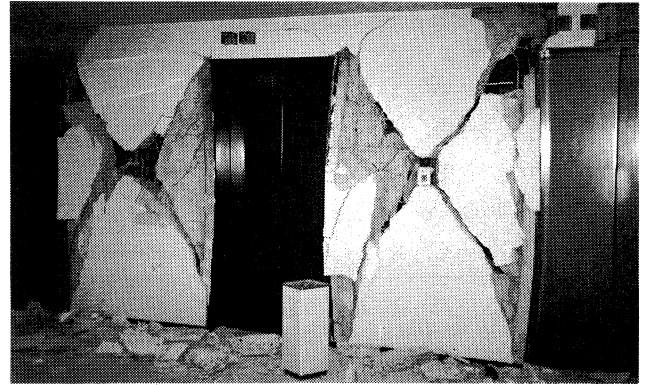
J A共済の共済金の支払い

J A共済連は、建物更生共済契約者の被災家屋等の調査を1月24日から約1ヵ月間、J A全共連や26府県J A共済連の職員延1,186名の応援、協力を得て実施しました。この震災によるJ A共済の共済金の支払金額

は、建物関係だけでも約61,000件、約1,000億円にもものぼっています。

県農業会館の復旧へ

県農業会館も外観的には大きな損傷は認められないものの、内部の壁・天井・床等損壊の被害が中間階を中心に相当大きい状況です。1月下旬に目視による現地調査の結果、補修と補強で復旧が可能であるとの見解を得て、県農業会館が「本県JAグループのJA運動・事業活動の拠点であることに鑑み、1日も早い復旧をはかる」ことを基本に、精密調査を受けて、現在復旧工事に着手しているところです。



亀裂の入った5階のエレベーターホール(県農業会館で)

JA中央会・連合会は、復旧までの間それぞれ本所(店)を仮事務所に移転し、日常の事業活動と復興対策に取り組んでいます。

森林組合

大震災から復興へ

去る1月17日早朝の阪神・淡路大震災は、一瞬のうちに生活基盤・都市機能が壊滅する深刻な大惨事になりました。

今回の大震災は、直下型の激震でしたので、多くの建物が全半壊し、森林についても、山腹の崩壊が各地で発生しています。特に、これから「なたね梅雨」のような長雨が続きますと被害の拡大と人家への影響が憂慮され、緊急治山事業として実施が不可欠といえます。

森林・林業関係の被害状況(3月14日現在)は、山腹崩壊75カ所、復旧額82億円、木材倉庫、製材工場、機械類の全半壊103件、製材品、その他施設等の被害を含め約23億円となっています。今後さらに増加するものと見込まれています。

また、県森連、県木連等の林業総合拠点施設である林業会館も各階に亀裂が入り、特に1階の主柱部分は縦亀裂が深く、コンクリートの剥落が激しいため、建物の使用禁止措置を受けました。本会は、林業会館から約30m北西の古河ビル内に移転しております。

大震災直後から県内をはじめ全国の森林組合、林業関係団体、個人の方々から製材品、杭丸太、煉炭等が続々と寄せられ、応急用に利用させていただいておりますことに、深く感謝いたしているところです。

思いがけない大震災から、最近はずいぶん復興への兆が見えはじめています。私たち森林組合関係者は、復旧用の製材品の安定供給と価格の安定、情報の収集・提供を円滑に推進するため、行政機関、関係林業団体および木材産業関係者が一体となって「阪神・淡路

大震災復旧用木材供給対策協議会」を結成しました。現在のところ復旧のための必要量は、約80万㎡と予想されており、県産材を中心に計画的に集め、安心して住宅建築を進めていただけるよう総力をあげて取り組んでいます。



主柱のコンクリートの剥離(県林業会館で)

1. 兵庫県下生協の被害状況

(1) 施設・備品の被害

(1995年2月27日現在)

県内生協数	被災地内生協数	被災生協数	事業停止生協数	損壊事業所数				被害総額
				全壊	半壊	一部損壊	備品のみ	
40 (1)	35 (1)	24	2	24	6	30	22+α	304億45百万円

(注) 1. 生協数には、兵庫県生協連および活動休止中の生協も含む。ただし、()は連合会未加入の生協数。
 2. 事業を停止した生協も事業を再開した。

(2) 役職員の被害

(単位：人・戸)

被災生協数 (集計生協数)	死亡者	負傷者数	家族の犠牲者数	家屋の損壊	
				全壊	半壊
22	16	59	108	665	784

(県生協連調査)

2. 兵庫県南部地震による農林水産業関係被害発生状況

(平成7年3月14日現在)

区分	被害額(千円)	被害面積 頭・羽数・ 件数等	摘要	区分	被害額(千円)	被害面積 頭・羽数・ 件数等	摘要
農地・農業用 施設	24,375,000	4,049件	畦畔、ため池、水路等のひび 割れ・崩壊等	農林水産業 環境施設	182,561	6件	農業公園等の建物の損壊
治山	8,206,000	75件	山腹崩壊、落石等	水産業共同 利用施設	3,559,209	57件	荷捌施設、給油施設、のり加工施設、 貯氷施設、冷蔵庫、倉庫等の全半壊 及び一部損壊
漁港	19,883,000	17件	防波堤、護岸、物揚場等の沈下 ・崩壊等	水産業個人 施設	1,277,515	—	
農作物	17,500	3ha 64t	トマトの落果、ハクサイ、タマ ネギ、原乳の在庫品の損傷	養殖加工等	1,258,015	402件	のり生産施設、ちりめん加工 施設等の損壊
畜産	25,150	—		漁船	19,500	40隻	漁船の一部損壊等
乳用牛	11,100	29頭	畜舎損壊等による死亡	林産施設	1,689,600	103件	製材工場・倉庫及び製材機械 等の損壊
肉用牛	3,300	8頭	"	卸売市場	24,487,300	9件	市場建物の全半壊
ブロイラー等	8,200	11,000羽	停電のための換気不良及び断 水による死亡	米穀卸商	1,170,800	9件	精米工場、倉庫等の損壊
種卵	2,550	15,000個	落下等による破損	米穀小売商	5,504,400	1,609件	店舗、精米機等の損壊
林産物	72,000	360㎡	製材倉庫の倒壊による製材品 の損壊	食品産業	14,963,400	106件	食品工場、倉庫、機械等の損壊
農業用共同 利用施設	5,380,093	27件	育苗施設、農業倉庫、家畜市場、精 米工場、牛乳工場設備等の損壊	関係団体施設	2,500,000	2件	農業会館、林業会館の損壊
農業用個人 施設	4,852,350	2,070件	農舎、畜舎、たまねぎ小屋、 温室等の全半壊	合計	118,145,878	—	

(兵庫県農林水産部調査)

(兵庫JCC・各連合会の連絡先)

- 兵庫県生活協同組合連合会
〒650 神戸市中央区下山手通4-16-3
(兵庫県民会館内)
TEL 078(391)8634
FAX 078(392)2059
- 兵庫県農業協同組合中央会(仮事務所)
〒674 明石市魚住町清水148
(JA兵庫教育センター内)
TEL 078(943)0394(企画調整室)
FAX 078(949)2155
- 兵庫県漁業協同組合連合会
〒650 神戸市兵庫区中之島2-2-1
(兵庫県立水産会館内)
TEL 078(652)3424
FAX 078(671)6685

- 兵庫県森林組合連合会(仮事務所)
〒650 神戸市中央区下山手通5-9-18
(古河ビル201)
TEL 078(341)5082
FAX 078(341)6936

編集後記

自然災害の前には人間の無力さを感じますが、
復興には多くの人びとが力を合わせ、「協同の力」
こそが成果への源泉だと確信しています。(A)